



# やらまいか

例会日：毎週火曜日 12:30 例会場：豊川商工会議所  
 会長：大岩一仁 幹事：夏目雅康 SAA：大島嗣雄 会報委員長：太田 稔  
 事務局：豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 0533-86-2535 Fax0533-86-8889  
 ホームページ <http://toyokawahoi.tank.jp> Email [hoirc@sala.or.jp](mailto:hoirc@sala.or.jp)

本年度第 29 回 通算 1100 回 平成 21 年 2 月 17 日 (火) 晴

ゲスト 豊橋市長 佐原光一さん 豊川音楽協会理事長 辻田一成さん  
 米山奨学生 ヴァン君  
 ビジター (なし)  
 出席報告 川淵啓治委員長

会員総数	計算会員数	本日の出席者数	本日の出席率	2/3 修正出席率
54 名	44+5 名	35 名	71.4%	100%

司会進行 大島嗣雄 SAA

## 会長の挨拶及び報告 大岩一仁会長



皆さん、こんにちは。私事ですが、待ちに待った初孫が生まれました。これでやっと皆様方と肩を並べられるようになりました。

孫の誕生で元気になりました。また、本日、大沢パスト会長がお越しですが、フェニックスの快勝が続いています。頑張っているフェニックスを見てまた元気をもらいました。皆さんで優勝できるように応援をしたいと思います。

先週の金曜日に春一番が日本列島に吹きました。九州ではここ 10 年で最も早い観測だったそうです。たしかに、今年の節分はとても暖かく感じましたし、2 月に入って 3 月並の気温が続いています。静岡では 2 月に夏日を観測したそうです。地球の温暖化を肌で感じます。暖かくなってくると、やっかいなのが花粉です。私も昨年から花粉症になり大変な思いをしました。花粉症の人にはつらい季節になりましたが、お互いに花粉対策をして乗り切っていきましょう。

今日の卓話の講師は、佐原豊橋市市長さんです。大変ご多忙にも関わらず、我々のクラブにお越し頂きありがとうございます。うちのクラブの例会で、豊橋の市長さんが卓話をされるのは、創立以来、初めての事だと思います。佐原市長さんの卓話をたっぷり聞きたいと思います。よろしくお願いします。

## 幹事報告 山城康司直前幹事

ウィークリー：新城 RC  
 ロータリー手帳の注文について

## 委員会報告

ほーほう子ども音楽祭協賛金の贈呈



## 外部講師の卓話

### 講師の紹介 野中泰志プログラム委員

こんにちは。今日は、豊橋市長の佐原光一様にお越しを頂きました。佐原市長は、昭和28年11月10日生まれ。豊橋市立栄小学校、南部中学校、県立時習館高校、そして東京大学工学部を卒業されて運輸省に入省されました。数多くの功績があるのですが、中でも、運輸省境港工事事務局長時代に、境港市の水木しげるロードプロジェクトにご尽力されました。また専門知識を生かされて、日本最速の新型フェリーの航路の開設にも取り組まれておられます。パナマ共和国海運庁に就任された時には、パナマの20年先を見通したグランドデザイン作成の指導にもされておられます。

今回なぜ、隣の豊橋市の市長様を講師にお招きをしたかと申しますと、20年先のこの東三河のグランドデザインについての想いも熱く語って頂きたいと思ひまして、大変ご多忙野中、無理を申し上げてお越し頂きました。それでは、ご静聴よろしくお願ひします。

## 卓話「東三河の今と未来」

### 佐原光一豊橋市長



こんにちは。ご紹介頂きました佐原でございます。豊川の方にも大変お世話になっております。日々、

申し上げますが、豊橋だけの豊橋ではない、東三河の一員としての豊橋であると考えていかなければいけない。そうすることが、ひいては豊橋のためになると思っております。

今日は、東三河という切り口で、私共の豊橋、そして皆様の豊川、そして上流域、下流域と言われますが、豊川をひとつの命の川としてみた時のこの東三河の中でどんなことを考え、どんなふうにしていこうか考えたことを皆様にお話をさせて頂きたいと思ひます。

1月に豊橋で行なわれました東三河5市・

2郡町村会長を囲む新春懇談会があり、新聞等に豊川市長さんが「中心は豊川」とか小坂井町長さんが「小坂井駅を総合駅に」と言った事がすぐに新聞の見出しになってしまうのが、この地域の現状なのかと思ひました。私の捉え方は必ずしもそうではなく、豊川は東三河の地理的に真ん中にあるので、それを活かした発展の仕方があるだろう。小坂井のような地域は、豊橋駅が大雨で使えなくなった時など、もう一つの地域の拠点駅になるのではないだろうか。それぞれの地域の特徴を捉えてのお話であったと思ひます。それぞれの地域の個性を認めながらも一体となって取り組むことによって、より大きな成績をあげることができるものや、最初から一緒になってやること、個々の個性を伸ばしたらよいものなどがある。そんなことを学んでいかないといけないと思ひます。その中で、私が豊橋に対して不満に思っていることは、たぶん東三河全体にも当てはまるかもしれませんが、この地域にとっても良いもの、たとえば美味しい食べ物があったり、綺麗な景色があったり、とても居心地の良い空間があったりしても、東三河の人たちは、東京や大阪に出掛けて行ったときに、自分たちの地域の良さを自らの口で語る事が非常に少ないことです。だいたい卑下することが多いように思ひます。私が勤務した地域で見えますと、九州の方は上手いものがあるとすぐ自慢してくれます。堂々と自慢されます。東北の方は少しシャイでなかなか言われませんが、しばらくすると「人には言えない」と言いながら美味しいものを教えてくれます。豊橋の方は最後まで言わないですね。大正軒のだんごだって、豊橋の甘酒だって、東京ではあんなに美味しいものはありません。もったいないです。だから良いところをみんなで探して、自信と誇りを持って言える、そんな東三河になってほしいです。

東三河の中心は、やはり豊川です。忘れてはいけないことですが、今豊川水系では豊川の水が足りなくなると天竜川から分けてもらっています。毎年必ず。豊川の恵みだけではなく、実は天竜川の恵みも頂戴しながら生活しているのです。そして、その豊川の水を未来永久に私たちの生活の基盤として使えるようにするためには、上流域の発展が何よりも欠かせないことなのです。上流域が実は私たちの生活の基盤になっているということに想

いを馳せておいて頂きたいと思います。そして、私たちが市の政策を色々考える時には、上流域のことを忘れてはならない。上流域を活かす産業、一緒に育っていくことができる産業、そしてそれぞれの個性を際立たせることができる産業、そんなことに意識を置きながら、私たちはやっていかないといけない。そうしておくことが、現在の経済不況を乗り切った先、世界や日本、そして、この地域が再びジャンプアップするときの非常に大きなキーワードになるのではないかと考えております。そんな予算編成もしていきたいと思っております。

東三河は5市3町1村です。これが一体になって発展していこうということです。地域にそれぞれ特徴がありますので、特徴を活かしていきたいと考えています。そんな時この地域で一番残念に感じることは、農業で言いますと、農産品はたくさんある。だけど加工したり、ブランドをつくったりすることは苦手だということです。たとえば、豊橋や豊川で盛んに作られている大葉ですが、これをペーストなどにした後、加工したりすると浜松に負けちゃったりします。また、次郎柿は東三河が産地です。次郎柿は甘柿なのですが、浜松にはわざわざこれを干し柿にして売るといふ工夫をして売っている人たちがいます。かなり頑張っているようです。さらに、渥美半島では良いアサリが取れます。そのアサリを串にさして干したものがありますが、現在、東三河でこれを商品として売っている会社はありません。佐賀や千葉では商品化し大いに商売をしています。素晴らしいものなのに、東三河の人はこれを工夫して特産品にするのが苦手でもったいないと思っています。生産技術はあるのに、商品価値を高めることをなかなかしない。でも最近やっと大葉をつかったヤマサのちくわが出来てきました。地域の特徴を良いほうの特徴に、この地域にしか出来ないものを見つけ出して商品化していく、それを自慢できるようにして、地域の力にしていけたらと思っています。それから、静岡を中心に拡がりを見せているB級グルメに対抗するわけではありませんが、三遠南信地域が連携してお爺ちゃんお婆ちゃんの作ってくれたB級手作りおやつのような企画が出せたらと思っています。これぞ地域のうまいものだぞといえるようなおやつを出してもらえたらなと思います。できれば豊橋で今年の秋ぐ

らいに開きたいと思いますが、成果が得られたら、東京事務所を拠点に活動のネタに出来たらと思っております。

東三河の地域競争力の向上を目指して、共通の技術向上によって全体の底上げをして、レベルアップして、この東三河という製品の商品価値を高めること。もちろん産学官が連携して、いろんな加工技術、品質管理技術、そんなものを磨いていきたい。そして東三河が一緒になって強くなっていく。地域の共通ブランドを生み出す。そんなことを進めていく必要があります。例えば、豊川稲荷だけでなく、他のこの地域にある神社仏閣とか歴史的なものを組み合わせると一つのパッケージとして売り出していく。豊橋の動物園と竹島の水族館をくっ付けるとか、いろんな組み合わせがあるだろうと思います。東京事務所を拠点にアンテナショップをやっていきたいし、海外には、三河港からみんな一緒になって輸出して市場を開拓していこうと思っております。

上下流が一体となった商品開発ということで考えてみた場合、将来やはり環境の話について考えておかなければならないと思います。豊橋市は上流地域の森林を保全するために、間伐材の利用を進めるための取り組みをこの3月補正からいろいろと進めていこうとしています。その一つとして賀茂や石巻地域など比較的寒い地域の学校の教職員室のストーブをペレットストーブにしてみようと思っています。結果が良ければ、施設園芸も重油焚きをやめてペレットボイラーの導入を考えていこうと思っています。ペレットストーブは間伐材を使います。東三河で、このペレットに取り組んでおられるのは、豊根村しかありません。豊根村では公共施設の暖房はペレットストーブです。そして燃料として使うペレットの生産もやっています。だいたい年間1000トンぐらい出荷能力があるように伺っております。1キロ42円ぐらいです。灯油と比べると熱量当たりのコストが若干高いです。1円当たりのカロリーが3分の2ぐらいになります。しかし、灯油や重油が値上がりすればコストは合います。奥三河の森林を守るために間伐をしたものでペレットを作ってストーブで利用する。山口県の方では、冷暖房の熱源（ガス冷暖房のように）としての使用にも取り組んでおられます。いずれそんな時代が来るかと思っています。それに備えて東三河

で連携して、このようなサイクルを廻していくための基盤づくりをしていけたらと思っています。その取組みの第一歩として、ペレットストーブを使って、改善などを図っていこうと思っています。

褒めるのが苦手な穂の国の皆さん。豊川は「かわいいさかなやさん」の作曲者の山口保治さんの出身地ですし、特集イベントもやられましたよね。豊橋は、自分の地域の偉人を褒め続けることが苦手なんです。田原は渡辺華山先生です。話は少し飛びますが、「ふるさと」という曲がありますね。あの曲は、作詞された方が長野の方で、作曲が鳥取の方なのです。長野では、「ふるさと」を作詞した方の記念館が建っています。そこには作曲された鳥取の方のことも書いてあるのです。偉人を地域ですっと褒め称える。それは大事なことだと思います。豊橋にも素晴らしい方は大勢いらっしゃるのです。道徳や歴史の授業で勉強する機会が少なくなっていますが、もっと地域の先人のことを学ぶべきだと思いますし、そうしたことが地域に誇りを持ち、褒め称えるベースになるとと思います。豊橋動植物公園に関して言えば、ちょうど今“旭山動物園物語”という映画をやっていますが、旭山動物園の園長さんは、豊橋に来られて、ヒントを得て帰られています。横浜のズーラシアの動物園も、豊橋を真似て造られています。豊橋動植物公園って本当はすごい動物園なんです。それなのに、豊橋の皆さんは「つまらない」と言われるんですね。みんなが本当に良かったと言わないとだめだと思います。美味しいものも同じです。穂の国の良さをもっと発見して頂きたいと思います。私は、三河湾の夕日の景色だってすごいと思いますが……。みんながそのように思ってくれるかどうかは、やはりこれからこの地域が一緒になって自ら良いところを発見し、それを発信していくことだと思います。

最後に当たり、皆様をお願いしたいことがあります。これからの東三河は豊橋や豊川が中心になって引っ張っていかねばなりません。引っ張っていくためには、自分たちの地域の良さを発見して、自分たちの声で、自分たちのことばで発信して行って頂けたらと思います。そういったことをお願いに本日は参りました。豊川も豊橋も自分のことをよく言うのが苦手だと思います。それでは今の地域間競争を生き抜くことができません。もち

ろん良いと言うからには製品の良さが大切ですが、それを良いと紹介しない限りは、初めて手にする人にはその製品の良さをわかってもらえません。地元の人たちが一番良く知っていますので、地元の人たちの正しい言葉として発信してほしいのです。それが、この地域が一緒になって頑張っていける原動力になるのではないかと日々思っております。是非、皆様方の街でも実践して頂けたらと思います。本日はありがとうございました。豊橋にお越しの時には、ぜひ豊橋市役所にもお立ち寄り下さい。13階の展望台は見晴らしが良いです。豊川の街もよく見えます。ご静聴ありがとうございました。

## ニコニコボックス

その他

大岩一仁会員	初孫が誕生しました
大沢茂樹会員	佐原市長さんありがとう
鈴木啓仁会員	誕生日を祝って頂き
永田恵照会員	結婚記念日を祝って頂き
小野喜明会員	子ども音楽祭協賛の御礼
杉浦節子会員	ニコボックス破損のおわび

## ロータリー情報

### 本年度 2008 年 12 月 31 日までの結果について (抜粋)

2008 年 8 月以来はじめて、2008 年 12 月に国際ロータリー (R I) とロータリー財団の両方において好ましい投資結果が見られました。本会計年度 12 月までに、R I には 1,900 万ドルの投資損失、財団には 1 億 5,900 万ドルの損失が出ていますが、このほとんどは含み損 (未実現損失) であり、ひとたび市場が回復すれば状況は好転すると思われれます。クラブ会費からの収入は予算を若干上回っており、財団へのロータリアンからの寄付も昨年度と比べ 300 万ドル増えています。R I と財団の運営費はほとんどの分野で予算を下回る好ましい状況を維持しており、この状況は本会計年度末まで持続すると見込まれています。

エド・フタ (布田) 事務総長

インターネット速報より

会報担当者：太田稔会員、樺山修一会員

このウィークリーは再生紙を使用しています。